

# 管理示方書における発生土等の管理方法について

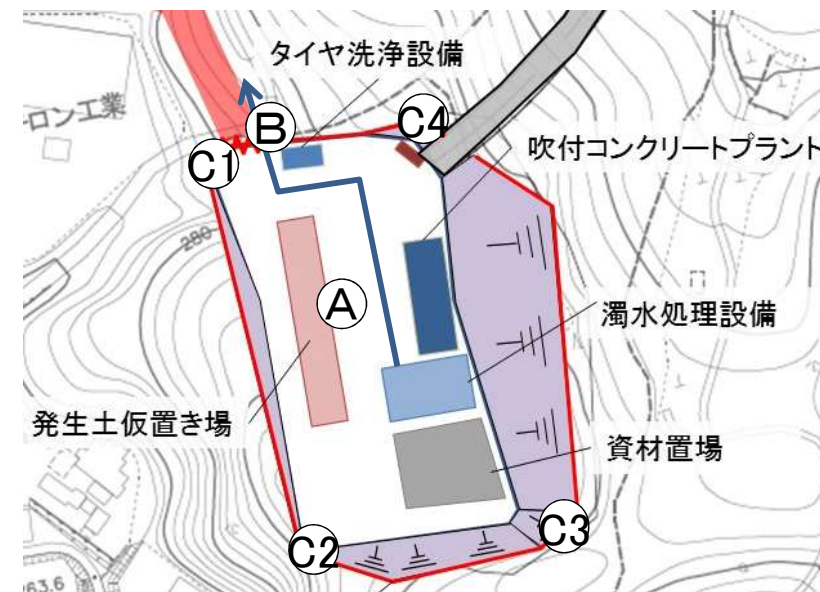
- 各管理項目を、以下の場所、頻度で測定(又はサンプル採取)します。

対象		場所	頻度	方法又は器具
発生土	ウラン濃度	A	1回/日	専門機関で分析
トンネル湧水	ウラン濃度	B	1回/週 <sup>2)</sup>	
敷地境界	放射線量 <sup>1)</sup>	C1、C2	1回/日	現地測定(線量計)
	ラドン濃度 <sup>1)</sup>	C3、C4	1回/日	現地測定(電離箱・電位差計)

- 1): 敷地境界の放射線量及びラドン濃度については、自然放射線量を日吉コミュニティセンターで測定し、日吉コミュニティセンターで測定した値と敷地境界で測定した値の差分を管理値と比較する。
- 2): トンネル湧水は1回/日試料を採取し、1週間分の試料を1サンプルとしてウラン濃度分析を行う。



線量計



※具体的な設備位置や測定位置は変更する場合がある。

# 管理示方書における発生土等の管理方法について

- 各管理項目の管理値は次の通りです。
- 発生土の管理値については、IAEA(国際原子力機関)の報告書の値(天然ウランの規制除外値)を参考にしています。
- トンネル湧水、敷地境界における管理値については、鉱山保安法等に定められた周辺監視区域の外側における限度値を参考にしています。

測定対象		管理値
発生土	ウラン濃度	1Bq/g以下(77 $\mu$ g/g以下)
トンネル湧水	ウラン濃度	0.02Bq/cm <sup>3</sup> 以下(1.54 $\mu$ g/ml以下)
敷地境界	放射線量	自然放射線量からの増分1mSv/年 (0.11 $\mu$ Sv/h)以下
	ラドン濃度	自然状態のラドン濃度からの増分 20Bq/m <sup>3</sup> 以下